

ふれあい

高知高須病院 院内誌

2015
vol. 75

1月号

40th Anniversary 開設 40周年 記念号



1階ロビー新年ご挨拶の正月飾り

- ◆開設40周年の節目を迎えて
- ◆開設40周年記念祝賀会
- ◆40年間を振り返って
- ◆患者さんからの言葉
- ◆開設40年 スタッフのあゆみ
- ◆訪問看護・居宅介護紹介
- ◆職場探訪
- ◆地域包括ケア病床のご案内
- ◆人生いろいろすずなりリレー
- ◆永年勤続表彰式
- ◆学会・研究会発表実績
- ◆ニューフェイス紹介
- ◆ご結婚・ご出産おめでとう

 **高知高須病院**
医療法人 尚賢会



臨床工学技士
片岡 達也
かたおか たつや 達也

- ①魚座・辰年・A型
- ②読書
- ③きれいで、清潔感のある病院だと感じました。
- ④精一杯頑張りたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。



臨床工学技士
藤村 麻衣子
ふしむら まいこ 麻衣子

- ①牡羊座・子年・A型
- ②ショッピング
- ③学会等での発表を積極的にされており、職員皆さんが勉強、研究をたくさんされているという印象を持っていました。
- ④久しぶりの現場復帰でご迷惑をおかけしていますが、多くの知識、技術を習得できるように頑張ります。



透析室看護師
岡林 由希子
おかばやし ゆきこ 由希子

- ①蟹座・卯年・A型
- ②ショッピング
- ③キレイで開放感のあるロビーが印象的でした。
- ④透析は初めてで分からないことが多く、迷惑をかけますが、よろしくお願いします。

ニューフェイス紹介

2014.10.1
2014.12.31

- ①星座・干支・血液型
- ②趣味
- ③病院の印象
- ④自己PR
- ※部署別に掲載



総務部事務職員
門田 和世
かどた かずよ 和世

- ①水瓶座・亥年・O型
- ②雑貨屋めぐり
- ③ロビーがとても広く、明るく、開放感があり、事務所も東の窓からの景色も良く、すてきな印象を受けました。
- ④若くはないですが、微力ながらも頑張っけて参りますのでよろしくお願いします。



安芸介護支援専門員
近藤 多美
こんどう たみ 多美

- ①牡牛座・午年・O型
- ②以前は一年間に100冊以上の本を読むことでした。今は歳をとってそれも無理になりました。歩くことかな?
- ③きれいな(病院が)。職員の方々がやさしい・仲が良いと思います。それはどうしてだろうと思います。
- ④「人生なるようになる」と最近では考えています。そう考えると気持ちが楽になります。気持ち良くすごしたいといつも考えています。



給食調理員
山下 絢子
やました あやこ 絢子

- ①獅子座・酉年・A型
- ②映画鑑賞
- ③広くてキレイな病院だと思いました。
- ④患者様、入居者様達に毎日おいしい食事を召し上げて頂けるように頑張りたいと思います。



安芸臨床工学技士
山本 希穂
やまもと きほ 希穂

- ①双子座・未年・A型
- ②カラオケ
- ③スタッフが優しく、患者さんに親切で雰囲気の良い病院だと思いました。
- ④技士としての経験が浅く未熟ですが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願いします。



はるか介護職員
森本 久美子
もりもと くみこ 久美子

- ①天秤座・子年・A型
- ②小説を読む
- ③きれいな環境と設備、親切で明るい職員さんたち。職員にとっても利用者さんにとっても素敵な施設だと思っています。
- ④私は介護職に就くために職業訓練で三か月間学び、初任研修を経て介護事務の資格を取得しました。これから少しでも利用者さんのお役に立てるよう、精一杯がんばりたいと思います。



はるか介護職員
下元 逸子
しももと いつこ 逸子

- ①牡羊座・午年・A型
- ②旅行
- ③1階は広くて、きれいで、まるでホテルのロビーのような感じでした。受付の方も丁寧で良い感じを受けました。
- ④歳を重ねましたが、若い方達と一緒に働けることに感謝し、一生懸命、努めたいと思っています。宜しくお願いします。



安芸医事課
堀川 健太
ほりかわ けんた 健太

- ①魚座・卯年・A型
- ②釣り
- ③とても明るく、綺麗な病院だと思いました。
- ④初めての職種で、ご迷惑をかける事もあるかと思いますが、日々勉強し、一生懸命頑張ります。よろしくお願いします。



本院医事課
宮崎 エリ
みやざき えり エリ

- ①天秤座・申年・B型
- ②旅行
- ③広くて、綺麗な病院だと思いました。
- ④初めて経験する仕事なので、ご迷惑をおかけする事もあるかと思いますが、頑張りますのでよろしくお願いします。

ご出産おめでとう



北添健臨床工学技士
湊士(みなと)くん
平成26年7月24日生まれ



松田 由美(透析室看護師)
平成25年12月20日生まれ
典士(ふみと)くん



横山 雄三(病棟介護福祉士)
横山 直子(病棟看護師)
平成25年4月4日生まれ
明日菜(あすな)ちゃん(左)

ご結婚おめでとう

- 透析室看護師 藤村 舞さん (旧姓:山崎) 9月9日 入籍
- 手術室看護師 川村 舞鈴さん (旧姓:西森) 11月29日 入籍
- 管理栄養士 西内 侑さん (旧姓:川田) 11月4日 入籍
- 管理事務職員 中平 仁史さん 12月2日 入籍

[尚賢会 平成26年11月の診療実績]

- 外来患者数/2,934人 ●紹介患者率/10.2%
- 新入院患者数/63人 ●新退院患者数/61人 ●平均在院日数/21.9日 ●病床利用率/72.0%

■院内誌「ふれあい」 vol.75・1月号 発行日/平成27年1月25日
■発行所/高知高須病院 高知市大津乙2705-1 TEL088-878-3377 http://www.takasuhp.or.jp
■発行人/寺尾尚民 ■編集/広報委員会 ■印刷所/(有)三宮印刷 高知市潮新町2-14-8



左から寺尾理事長、寺尾副理事長、尾崎高知県知事夫人、池辺副理事長

開設40周年記念 祝賀会



平成26年10月28日、ザクラウンパレス新阪急高知にて、「高知高須病院開設40周年記念祝賀会」がおこなわれました。

祝賀会は、本来ならば寺尾尚民理事長のご功績を感謝する祝賀会ですが、寺尾理事長からは、「今日まで病院が発展できたのは、職員のおかげ。参加しているみんなでお祝いの会として楽しんで下さい」とのお言葉がありました。

来賓の高知大学医学部病理学講座教授の降幡睦夫先生や寺尾理事長の同級生の近森一正糖尿病内科部長からの祝辞のあと、寺尾理事長、湯浅健司院長へ記念品の贈呈が行われました。

そのなかで上映された「高知高須病院40周年の歩み」を振り返るスライド。

制作者の前川副看護部長に、スライドに込めた思いなどを聞きました。



完成しました。歌詞と写真を合わせるなど、こだわりから消灯時間を過ぎることもありませんでしたが、参加者からは「良かったよ」

※今回の「開設40周年記念号」では、本スライドの画像を使用しています。



一枚一枚の写真から伝わる職員の思い その一員であることがうれしい

私は、この祝賀会で上映する「高知高須病院40周年の歩み」のスライドの依頼を受けました。

高知高須病院の歴史や楽しかった行事、そして現在の職員の写真を撮り、「川の流れるように」「ありがとう」など計3曲を挿入し、約15分のDVDが

とたくさん声をかけていただき、苦労が報われました。

一枚一枚の写真から、昔を思い出したり、若かりし姿を笑ったり、そして「現在の私たち」と最後に入れた各部署のみんなの写真を見ていると、こんなに多くの職員が尚腎会を支え、その一員であることをうれしく思いました。これからも、職員一丸となつて頑張ってくださいませう！

副看護部長 前川 三智子



開設40周年の節目を迎えて

多くの人に感謝して そして、次の節目に向かって



医療法人尚腎会 理事長 寺尾 尚民

10年というのは、よく一つの節目、区切りと捉えられるものである。この医療法人尚腎会も40年目となれば、それなりに重みも感じられるというものだろう。

今、この時を迎えて感じますことは、人、人、人という言葉であります。それは、院内のスタッフに恵まれて来たことは勿論ですが、院外から大変、力強いサポートを受けて来た事に、唯、感謝という言葉、思いがあるのみです。

先日、或る医療関係の方から質問されたのですが「この40年と言うのは、短かったでしょうか、長かったでしょうか」と。私は即座に「短かったかな」と答えました。が後で考え直せば、短くもあり、長くもあり、といった所で、長く感じられた時はしんどい時であり、短かった時は良い時であったと思えます。

振り返ってみれば、40年前に高須ク

リニックを開設その後、病院へ増築。また、安芸診療所、南診療所、室戸クリニックを開設。以後、本院の新築移転。そして安芸診療所増築。更に本院増築にて透析室、その後、老人ホーム、はるか、開設等々が施設面での発展の経過であります。

また、内容的には泌尿器科診療及び透析医療、さらに糖尿病を含む慢性腎臓病の専門的医療に特化し、実施して参りました。

この経過において、県下全般における専門的医療の提供もさることながら、特に、この領域での医療過疎とも言えた県東部地域への展開とその貢献度は大きかったと、皆さんと共に自画自賛したい所であります。

このような歩みを辿って参りましたが、これからの10年を如何にして乗り切っていくべきか。その最も重要な目標はより強固な組織作りであります。そのために大切なものは、皆さん方

の気持ち、心であると思っています。立ち向かって行く、**熱きハート**こそが、これからの尚腎会を支える根幹であると思っています。

今月、尚腎会イノベーションフォーラムにて「透析室業務の改善パート2」が開催されました。主として看護部と臨床工学部が如何に協力し合えるか、というのが主目的であり、昨年引き続き2回目の会でしたが、それなりに共同作業も増加し、協力関係もより強くなつたと感じました。また、加えて、この会の参加者等による大変活発な発言があり、熱いディスカッションが行われました。前向きで、且つ、その熱さを新年早々に感じられた事は、大変、嬉しく力強く思つた次第です。

今年から、更に次の10年に向かって**熱きハート**を持つて**尚腎会の組織風土醸成の向上と発展**と共に歩んで頂きたい！と心から念願する次第であります。

2015年1月

時を刻む振り子時計



職員食堂「北山亭」にあるネジ巻き式振り子時計(写真左)。開設当時の40年間、時を刻みながら、病院でおこった出来事や職員の一人一人を温かく見守ってきました。

これからも尚腎会の歴史とともに、静かに時を刻んでいくことでしょう。

※2階透析室にある時計(写真中央)は南診療所開設時、1階ロビーにある時計(写真右)は大津移転時に贈呈されました。当院の大きな節目ごとに誕生した振り子時計たちです。



大津 新病院へ移転(2002.6)

高知市大津に免震構造を持つ新しい病院が建築された。高須にあった高知高須病院(本院)が南診療所と併合し、移転したものである。

新病院のコンセプトは「ゆとり」、「安らぎ」、そして「安全」。また、「病院らしくない建物」にもこだわった。

例えば、外壁の一、二階部分はインド砂岩でできており、柔らかく、温かい雰囲気を醸し出している。またホテルのような受付ロビーは、カーテン、家具類など、寺尾副理事長があつらえたものである。

「患者さんのために」を追求したひとつの結果である新病院。寺尾理事長指導のもと、職員一同、更なる進化を目指し、努力していくことを誓うのであった。

室戸クリニック診療開始(2000.11)

昭和56年、東部透析患者さんの負担軽減のため、「附属安芸診療所」が開設された。

それから、20年後。県東部医療の最前線基地として、「室戸クリニック」が開設された。初代院長は宮本信昭先生。

当初は附属安芸診療所からの患者さん6人から始まった。

患者さんからの「透析後でも自宅に帰ってから用事ができる」、「広々とした病院で気持ちいい」との声に一安心。



室戸クリニック



病院駐車場が冠水、ゴムポートも出動した(旧病院から撮影)



平成3年10月31日付 高知新聞朝刊より

県内民間病院初 生体腎移植実施(1991.10)

張り詰めた空気の中、母から娘への生体腎移植手術が行なわれた。民間病院としては県内初、四国県内でも3例目の実施である。

4時間におよぶ手術は順調に進み、術後の経過も良好。患者さんからの「尿、出ていますか」との間に、「出ていますよ」とウロガードを見せてあげた。

その時のなともうれしそうな表情に腎移植だ、生きる喜びなんだと、職員一同、より良い医療の提供に向け、気持ちを新たにすることができた。

「高須が池になっちゃう」98豪雨(1998.9)

9月24日、宵の口から降り始めた雨は雷を伴い、時とともに激しくなった。翌25日、高須周辺は池のようになり、病院内は約60センチの冠水。

そのような中、胸までぞぶりながら一人、また一人と職員がかけつける。

入院患者さんへの対応をする者、透析患者さんへ電話をかける者、施設を点検する者など、病院再開に向け、みん

ながひとつになった。結果、25日夕方から透析を開始、28日には外来患者への対応が可能となる。

豪雨災害では、検査機器類が全滅するなど、経済的損失は大きいものであった。しかし、それにも増して、職員の団結や業者の方々からの協力など、皆の「病院を思う気持ち」を感じることができた。これがなによりの財産であった。

40年間を振り返って



高須クリニック開設(1974.10.1)

見渡せば水田ばかり。周囲の心配をよそに「高須クリニック」が開設された。

コメディカルスタッフ12人、透析患者数は5人であった。

当時を知る職員は語る。「当初は、外来患者も少なく、極めて暇だった」と。

しかし、ここから、患者さんのことを第一に考えた医療提供とともに、尚腎会40年の歴史が始まったのである。

40th Anniversary

40th Anniversary

Timeline table with columns for years from 2015 to 1974, detailing hospital events and national/social events.



第1回慰安旅行 宮崎

高知高須病院に入職して早いもので33年という年月が経ちました。若かった私もあと少しで定年を迎えようとしております。

最初は病棟からの勤務となり、検温に行った時の事です。脈拍測定で患者さんの手首に触った時びっくりして自分の手を引つめてしまった事があります。それがシャントだったのです。今はそれを作製する介助の側になり、手術室での勤務が最も長くなりました。

シャントの手術は基本的には変わつたように思いますが、泌尿器では開腹手術が少なくなり今ではロボットが手術する時代が変わつています。

あと少しの高知高須病院での勤務となります。看護師人生が悔いなく、充実した物になるよう努めていきたいと思っております。

時代の流れを実感した33年間



手術室 看護師 藤沢 クミ

大量失血事故 患者さんの回復祈った毎日



医療安全管理室 恒石 真紀

託児所の歴史と共に



託児所 保育士 福原 真弓

資格取得に挑戦した日々



検査部 臨床検査技師 川村 昌子



寺尾理事長&寺尾副理事長

印象に残っていることは、平成16年10月20日台風23号で、吉良川地区が波の影響で通行止めになった時の事です。定時に、患者さんは無事帰宅できたものの、道に石や木がゴロゴロし、安芸・高知方面のスタッフは帰れませんでした。夜8時頃まで病院で待機していたところ、患者さんより情報が入り、山越えをして帰ることができました。

毎年シーズンがくると、思い出します。毎日忙しいけれど、やりがいのある仕事ができたと大変うれしく思っています。

看護師や介護福祉士だけでなく、地域との連携が重要となり、居宅介護支援センター、訪問看護も始まります。今後もチームが丸となって「患者さんのよき理解者・援助者」に努めていきたいと思っております。

附属安芸診療所は看護師も50代が多く、お互い労わり合いながらの勤務ですが、若者の成長を妨げることなく知恵を絞り、精進して行きます。よろしくお願ひします。

私の心に残るエピソードは何と言っても忘年会です。平成19年にカムバック（出戻り）してきた年の忘年会で、理事長より「あなたに帰ってきてもらってよかった」と声を掛けて頂いたことを今でもよく覚えています。

それから毎年参加しているのですが、忘年会と言えば当在宅部長、花形スターの岡林正美嬢（嬢？）の活躍です。元タカラジェンヌかと思わせる容姿で舞台を駆け回り、毎年喝采を浴びていることは皆さまよくご存じだと思います。

私も何度か脇を務めてきましたが、寄る年波には勝てず後進に道を譲りました（笑）。今年はどうなるか、パフォーマンスが観られるのか、年末のひそかな楽しみです。また私個人としては開設30周年、40周年と関わる事ができまして、大変うれしく思っています。そして30周年記念の冊子を見るたび、10年という歳月で変化した自分の姿に戸惑っています。



平成23年度 尚腎会忘年会

Message

開設40年 スタッフのあゆみ

台風襲来で立ち往生 山越えてやっと帰宅



室戸クリニック 看護師 坂本 明美

透析治療の「変化・革新」を日々経験



附属安芸診療所 看護師 清藤 加代子

一年の疲れを癒す 岡林一座



在宅部 看護師 山崎 英代

皆で繋いだ食事リレー



栄養部 調理員 近藤 孝子



第1回高須カンファレンス

入職前、建設途中の高知高須病院を見ながら、「大きくてきれいな病院が出来るんだ、こういう所で働けたらいいなあ」と思っていた頃から早いもので13年が経ちました。

仕事面ではマルチスライストやPACS(モニターによる画像診断)の導入があり、責任者として初めて、業者さんとの連日の面談や院内各部門との打ち合わせで揉まれ、鍛えられた事を思い出します。

また、撮影室からは病院周辺の状況が良く見えるのですが、最も印象に残っているのは、事務所の職員が台風の暴風の中で、植えられたばかりの街路樹が倒れるのを必死で庇っていた姿も見られました。

揉まれ鍛えられた13年間



画像診断部 診療放射線技師 一円 善史



あれから16年、月日が経つのは早いものですね。あの体験を共にした人達も少なくなり、少し寂しく感じます。高知高須病院は40歳になりました。私は…(笑)。

これからもまだまだ発展していくであろう高須病院の姿をもう少し見守っていかたいと思います。

病院に近づくと思者さんをゴムボートに乗せ搬送している職員を目にし、院内に入ると1階部分が冠水し、ライフラインは途絶え、ほとんどの機能が停止している状態でした。すでに集まっていた職員達は、患者さんの対応や病院復旧に向け大忙し。私もその波に呑まれるように駆けずり回り、怒濤の一日を終えたのでした。

高知豪雨、、、怒濤の一日を終えて



病棟 看護師 今橋 香



高知高須病院開設40周年の歴史の中に携わっていることをとても誇らしく感じています。私が高知高須病院と巡り合ったのは、昭和63年5月のことでした。ちょうど人生の半分を高知高須病院と共に過ごしてきたことになりました。

当初半年間だけの勤務予定が、今日までに至っているのは、先輩方や仕事仲間にも恵まれ、たくさんの方のご指導のおかげだと感謝しています。今まで出会った方や、これからの出会いをもっと大切に、さらなる高知高須病院の未来に向けて、医事課一同、笑顔忘れず、力を合わせて躍進していきたいと思えます。

人生の半分をすばらしい仲間と共に



医事課 中西 喜美江

1人体制だった時代を経てソーシャルワーカーが増員され、今はいつでも部署内で相談し合える環境です。代と共にソーシャルワーカーに求められる役割も変化していますが、地域医療連携室、今後常に患者さんや家族との関わりを大切に、よりよい支援ができるよう努めていきたいと思っています。

その言葉どおり、移転前に2人体制となり、現在は地域医療連携室として看護師1人とソーシャルワーカー3人体制で業務に携わっています。さらに東部専任のソーシャルワーカーが配属されたことも長年の歴史の中で大きな変化だったと思います。

高知高須病院に就職し10数年になりますが、その間に地域医療連携室も大きく変化しました。当院のソーシャルワーカーは代々1人部署でした。私も就職後しばらくは1人で業務をおこなっていましたが、経験も浅く不安でいっぱいでした。

より細かな支援を目指して



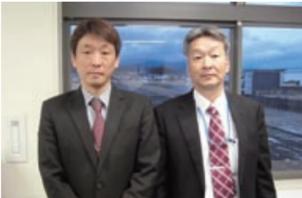
地域医療連携室 MSW 安藤 由美

私が入社した当院の昭和時代は、予算統制が外部コンサルタントによって指導、管理されており、決算の財務諸表を基に経営分析が行われ、主要者への報告がされておりました。すべてアナログでした。

その後の進化として、それを写真にし(撮影ライトが熱かった)、外部へスライド作成を委託、またコピー紙からOHPファイル転写して報告をしていたのがそのころです。

現在は各人がPCのソフトにより自由自在に報告文から表、グラフ、動画まで使いこなす時代です。これからの10年間で情報の作り方、見せ方がどこまで進化(変化)するのかわかりませんが、情報授受は口、耳、目、振動からの基本に加え、その他の体感も加わるのかもしれないですね。

時代はアナログからデジタルへ



情報管理部 山中 理司

私自身いろいろな人と出会い、仕事を教えてもらい、勉強して高知高須病院と共に成長してきました。寺尾理事長の40周年は、まだ長い階段の夢の途中だと思っています。これからも、ますます高知高須病院の明日への発展のために尽力していきます。

98豪雨では病院も大浸水し、多大な被害に遭いました。その日、私は車が水没してしまつたため、歩いて南診療所に出動しました。患者さんも来院できず、厨房でカレーを作つて食べ、患者が来るのを待ち、夜遅くまで透析をしました。その後、災害に対する備えが重要になりました。

私が就職した昭和60年当時は「高須クリニック」の名称であり、医療機器もまだまだ発達していませんでした。しかし、時が経つにつれ設備投資や改築などで施設、医療機器がどんどん変化していき、名称も「高知高須病院」に変わり発展していきました。

病院と共に成長してきた私



臨床工学部 臨床工学技士 濱崎 能久

昭和62年、栄光の尚賢会に裏口から入社して以来、今日まで27年間、尚賢会職員の皆様ならびに患者さんの方々から叱咤激励を頂き、今日まで歩んできました。

振り返りますれば、27年間にわたるサラリーマン生活、附属安芸診療所医事で採用され、本院事務職として現在に至っておりますが、毎年いろいろなことがございました。

人生、順風満帆に歩むことはないでしょう。何処かで不調の時が来ましたが、そんな時「灰になつてはいけない、小さくても炭のままでもいいなさい」と言う言葉を聞きました。小さくても炭のままでもいいなさい、再び大きな炎を燃やすことができます。

小さくても炭のままいいなさい



事務所 中島 政司

元氣になつて無事リハビリを卒業されても、院内でお会いすると遠くから手を振つていたり、声をかけていただいたらりと高知高須病院の患者さんには本当に元気だと思えます。

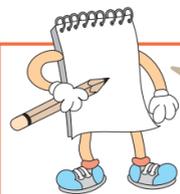
リハビリも人員増員し、今後新たな取り組みに向け、尚賢会の40周年の歴史に恥じないようリハビリ部としても頑張つていきたいと思っています。

私がこの病院に入職したのは平成17年2月1日ですので10年目を迎えることとなります。当初はリハビリの施設基準の取得機能や役割を定義づけることから始まり、他部署の助けを借りながら、楽しいリハビリをモットーに、時には厳しく、時には面白おかしく楽しくおこなうことができました。

モットーは楽しいリハビリ



リハビリ部 理学療法士 松本 節子



ソーシャルワーカーの仕事、ご存知ですか？

現在、本院3人、東部(安芸・室戸)1人のソーシャルワーカーが地域医療連携室に所属しており、透析のこと、医療費のこと、受診のことなど毎日多様な相談をお受けしています。

今回は、あまり知られていない入院中の患者さんへのかかわりについてご紹介いたします。

職場探訪 12

地域医療連携室

ソーシャルワーカー 大倉 恵子

入院時

毎日の入院患者さんをカルテで確認、担当のケアマネジャーさんがいる場合は、入院前の様子をお聞きし、病棟スタッフと共有し支援の計画を立てます。

入院中

患者さん、ご家族の希望を伺いながら、院内スタッフとのカンファレンスなどで治療やリハビリの進み具合、退院の時期などを確認し、院外の事業所(ケアマネ・デイサービス・ヘルパー・訪問看護など)と連絡を取り合います。

退院前

患者さんが利用するサービス事業所と当院のスタッフが一同に会するサービス担当者会を設けます。この担当者会は患者さんを中心としたプロジェクトチーム!ここでサービスの予定と患者さん、ご家族の希望を再確認し、退院へ。

患者さんの退院後の生活を具体的に想定するため、早めに理学療法士とご自宅を訪問しています。可能な限り、ケアマネジャー、住宅改修福祉用具業者さんにも来ていただき、住宅改修の場所や退院後のサービス内容をみんなで一緒に考えます。



《介護保険を利用した住宅改修の一例》



こんな感じになりました!!



- 台所を通って居間に行く導線にポジションバーを設置
- トイレ・寝室へつながる廊下までに置くタイプの手すりを設置
- 手すりから手すりまでに距離があったため、隣の部屋の棚を皆で運んで支えに

ソーシャルワーカーは直接治療をおこなったり、サービスを提供するわけではありませんが、このように相談、調整の役割を担い、院外と院内のチームをつないでいます。退院後もケアマネジャーや事業所より連絡をたくさんいただきます。そのため持っているPHSはフル稼働です。

今後も患者さん、ご家族の思いをできるだけ反映した支援をしていきたいと考えています。お困りのことがありましたら、ご相談ください。

訪問看護ステーション たかす 居宅介護支援事業所 ケアサポートたかすを開設しました。



平成26年10月1日、「訪問看護ステーションたかす」および「居宅介護支援事業所ケアサポートたかす」を開設しましたので紹介します。

訪問看護ステーション たかす

管理者・看護師 福留 孝江

現在、透析、糖尿病、CKD、難病の方に訪問させていただきます。

おひとり暮らし、老夫婦のご家庭は内服管理ができていないことが多く、とても心配しています。

在宅ケアは、病気や障害の管理だけではなく、そこから引き起こされた生活障害と、その影響によって療養者ご本人とご家族が、生活に困難をきたさないようにサポートすることです。

また、退院直後から数週間は病状も不安定で、訪問看護の必要性が高い時期です。退院患者さんやご家族が自信をつけながら、安心して在宅療養生活が継続できるように支援することも大きな役割のひとつとなっています。

入院中から自宅で暮らしていくために療養者、家族、多職種が同じゴールを目指し、連携していく必要があります。

ご入院中の方、外来患者さん、透析患者さんなど、ご自宅での療養生活で気がかりなこと、心配なことがあればお気軽にご相談ください。安心できる暮らしをサポートしていきます。

居宅介護支援事業所 ケアサポートたかす

管理者・ケアマネジャー 南 聖子

在宅で生活する利用者さん・ご家族のお手伝いができるようになりました。

開設後、開設したことのお知らせと利用者獲得に向け、地域包括支援センター・各病院をはじめ、たくさんの方にごあいさつに伺いました。

どこに行っても「高知高須病院と言ったら地域医療連携室にお世話になっています」と声をかけて頂きました。地域医療連携室の実績が、大きな信頼を築いていることがわかり、高知高須病院の職員ということで快く対応していただきました。

今までの当院が築いてきた信頼を失うことなく、高知高須病院チームの一員として利用者さん・ご家族さんの力になれたらと考えています。

【連絡先】

訪問看護ステーション たかす
TEL088-878-3021

居宅介護支援事業所 ケアサポートたかす
TEL088-878-3016



永年勤続表彰式

平成26年度尚腎会忘年会(12月13日サンピア)にて、永年勤続職員の表彰式が執り行われました。今年度は10年勤続表彰20人、20年勤続表彰2人、そして30年勤続表彰は4人の方が対象となりました。表彰されたみなさん、長期間の勤務、ありがとうございます。日々の努力のなかで培われた知識や経験を生かし、今後ともよろしくお祈り致します。

永年勤続職員を代表いたしまして、30年勤続表彰を受けられた小松登美さんの謝辞の言葉(一部抜粋)を紹介致します。



30年勤続表彰職員(寺尾理事長と一緒に)

成長することができた30年間 地域に貢献できる尚腎会勤務に喜び

附属安芸診療所 小松 登美

腎のトータル医療と患者さんにより良い医療の提供のために、常に新しい知識と技術を導入され、今後も更に医療と介護において、地域に貢献していく尚腎会で勤務させていただくことは、私達にとって感謝と喜びです。

30年前、「高知高須病院は良い病院ですよ」と紹介され、「良い病院の良い看護師になりたい」と努力してまいりました。

自分にとっては、あつという間の30年でした。

色々な挑戦の機会ごとに大変なこともあります。挫折ややりがいや達成感を体験することで成長することができました。

寺尾理事長、副理事長をはじめ上司、同僚、スタッフの皆さんに励まされ、支えられての30年だと思います。

今後も尚腎会のより一層の発展のために、微力ながら貢献できるように努力してまいりたいと思います。

勤続30年表彰

附属安芸診療所外来看護師	太田 由里	昭和58年12月21日採用
診療技術部課長代理	井上 美和	昭和59年3月21日採用
附属安芸診療所師長	小松 登美	昭和59年5月1日採用
透析室統括師長	河村 まさ子	昭和59年5月10日採用

勤続20年表彰

透析室看護師	渡辺 真理	平成6年1月4日採用
病棟副主任	村越 香織	平成6年3月21日採用

勤続10年表彰

病棟看護師	小松 里美	平成15年11月1日採用
附属安芸診療所院長	戦 泰和	平成16年1月1日採用
外来副主任	島田 美知代	平成16年1月27日採用
室戸クリニック看護師	中屋 和美	平成16年2月1日採用
車両運転手	澤本 信一	平成16年2月16日採用
透析室看護師	中村 晃子	平成16年3月1日採用
手術室看護師	井上 有花	平成16年3月8日採用
透析室介護福祉士	柳本 周二	平成16年3月15日採用
透析室介護福祉士	竹内 早紀	平成16年3月15日採用
透析室介護福祉士	山下 真実	平成16年3月15日採用
病棟介護福祉士	徳弘 健介	平成16年3月15日採用
病棟介護福祉士	横山 雄三	平成16年3月21日採用
病棟介護福祉士	河村 紋子	平成16年4月1日採用
臨床工学技士副主任	山本 隼也	平成16年4月1日採用
臨床工学技士	大石 真弓	平成16年4月1日採用
臨床工学技士	山本 加奈	平成16年4月1日採用
臨床工学技士	濱田 龍一	平成16年4月1日採用
病棟看護師	横山 直子	平成16年4月5日採用
透析室看護師	宮崎 みずえ	平成16年4月7日採用
管理栄養士	西川 薫	平成16年5月10日採用

地域包括ケア病床のご案内

現在、国の施策として、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしく生活できるように医療、介護、予防、住まい、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に向けて進んでいます。

これを受けて、当院でも病床再編に取り組み、検討を重ねてきました。

そして、H26年10月より63床のうち27床を、「地域包括ケア病床」へと変更しました。

地域包括ケア病床とは、急性期治療を終了

し、すぐに在宅や施設へ移行するには不安のある患者さんに対して、在宅復帰に向けて医療管理、診療、看護、リハビリを行うことを目的とした病床です。

早期に在宅へ帰れるよう「在宅復帰支援計画書」に基づいて、主治医、看護師、リハビリスタッフ、医療相談員等が協力し、チーム医療で効率的に患者さんのリハビリや在宅支援(相談、準備)などをおこなっています。



第30回 人生いろいろすずなりレレー

西森 加栄 さんから → 透析室3 看護師 岡村 貴子 さんへ

私の小さな楽しみ



私の小さな楽しみは漫画を読むこと。中でも子育て漫画に癒されています。

特におススメなのが、「ママはテンパリスト(通称/ママテン)・集英社発行」です。わたしも男の子の育児に奮闘中ですが、このママテンはいわゆる「男の子があるある」と言いますか；男の子を育てたことがある人なら、きっと「あーあるある」と手を打って笑ってしまう様な内容です。

男の子のかわいさ、ちよつとドジなところ、子供らしいところ、ぶーっつと笑ってしまう想像もできない言動が満載です。

ちよつと育児に疲れた時や、時間がある時にこれを読んでは、また、息子と一緒ががんばるぞ、と力が出てくる作品です。男のお子さんのいるパパ、ママ、ぜひ読んで下さい。女の子子育て中の方には、高野優さんの「子育てハミング日和(学習研究社発行)」。こちらは、女の子育児のほんわか感が醸し出されている作品です。こちらも是非…。

学会名	発表日	開催地	演題名	部署名	演者名
第64回日本病院学会	7月 3日	香川県	当院の透析患者分布についての考察	情報管理部	山中 理司
第64回日本病院学会	7月 4日	香川県	SPDの運用改善	管理部	森木 幸
第64回日本病院学会	7月 4日	香川県	未収金発生防止と回収に向けて	総務部	射手 大河
第64回日本病院学会	7月 4日	香川県	医療廃棄物処理削減への取り組み	総務部	北岡 啓介
第64回日本病院学会	7月 4日	香川県	再雇用制度の整備に向けた取り組み	総務部	吉田 哲也
第64回日本病院学会	7月 4日	香川県	物品受注の見直しで用度業務断片化に及ぼす影響の検証	総務部	黒川 誠
第95回日本泌尿器科学会四国地方会	7月 5日	香川県	遺伝性前立腺癌と考えられた一家系	医 局	山本 洋之
第12回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会	8月24日	高知県	販売管理システム機能追加による業務改善	管理部	小島 昇平
第12回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会	8月24日	高知県	災害時における送迎車両の適切な避難対策	管理部	中島 政司
第12回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会	8月24日	高知県	入院診療録(電子カルテ)監査への取り組み	診療報酬情報部	寺尾 尚一郎
第12回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会	8月24日	高知県	出張手配業務の効率化について	総務部	中平 仁史
第12回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会	8月24日	高知県	透析患者の退院支援への取り組み	病 棟	田邊 美幸
第12回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会	8月24日	高知県	職場の環境改善 ～5Sを使って～	本院医事	中西 喜美江
第12回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会	8月24日	高知県	透析装置の透析開始チェック、感染管理ベストプラクティスを実施して	臨床工学部	濱崎 久人
第9回クリアランスギャップ研究会	8月30日	広島県	HDFにおける尿素CLの理論計算を用いたCL-Gapの臨床評価②	臨床工学部	仙頭 正人
第9回クリアランスギャップ研究会	8月30日	広島県	CL-Gap-S.T.S.とVA狭窄部位について	臨床工学部	仙頭 正人

発表期間
7月1日から9月30日

学会・研究会発表実績

学会名	発表日	開催地	演題名	部署名	演者名
第9回クリアランスギャップ研究会	8月30日	広島県	体液量の誤差は生命予後に影響を及ぼすのか?	臨床工学部	小川 晋平
第9回クリアランスギャップ研究会	8月31日	広島県	CL-GapとVA狭窄部位の関連性について	臨床工学部	濱田 あすか
第20回日本腹膜透析学会学術集会	9月 6日	山形県	南海トラフを震源とする大規模地震に備えたPDの震災訓練	臨床工学部	田村 勇人
第47回中四国支部医学検査学会	9月13日	愛媛県	血液透析患者における血清亜鉛濃度の関連因子と2年後の経過	検査部	北村 理恵
第47回中四国支部医学検査学会	9月13日	愛媛県	糖尿病のCKD4-5期におけるHbA1cとグリコアルブミンによる評価の検討	検査部	坂出 佳代
第19回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	9月20日	岐阜県	1型糖尿病患者の集いをおこなって ～ワールドカフェ方式を用いて～	外 来	前田 千佐
第56回全日本病院学会	9月20日	福岡県	未収金発生防止と回収に向けて	診療報酬情報部	山本 智代
第56回全日本病院学会	9月20日	福岡県	特別休暇の届出方法は正への取り組み	総務部	野島 真弓
第56回全日本病院学会	9月20日	福岡県	職員情報の一元管理	総務部	西村 知之
第56回全日本病院学会	9月20日	福岡県	ケアマネージャーが当院ソーシャルワーカーに求める連携について	地域医療連携室	藤田 真依
第56回全日本病院学会	9月20日	福岡県	患者サービス向上	本院医事	中西 喜美江
第56回全日本病院学会	9月21日	福岡県	DPCデータを活用した診療内容検証への取り組み	診療報酬情報部	寺尾 尚一郎
第56回全日本病院学会	9月21日	福岡県	退院サマリーの早期完成をめざして!	診療報酬情報部	市川 佳代
第56回全日本病院学会	9月21日	福岡県	自立支援医療(厚生医療)の速やかな申請を目指して	総務部	射手 大河
第35回日本アフェシス学会学術集会	9月26日	東京都	リケセルの長期使用経験と臨床効果について	臨床工学部	細川 和宣
第1回腎と栄養研究会	9月27日	東京都	CKD病期4の高齢者における栄養指導の検討	栄養部	西川 薫